

## ■現代文 採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 得点箇所漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の欠落等については、一つごとに1点減点する。尚、同一の誤字、送り仮名の誤りの繰り返しについては、1点だけの減点でよい。

## □ 現代文 50点

## 問一 10点

## ■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

## ■模範解答例 ※各要素同意表現可。

A ① B 〇2点

C 〇2点

「俳優は」 堅苦しいこなれぬ日本語だが、その分、その人間に対する距離感と礼節とを少なくとも建前上は保つことができるのに対し、

A ② 〇1点 D 〇1点

E 〇2点

F 〇2点

「役者」は 芝居の現場に息づく 生きた日本語であり、その分、門外漢の自分が軽々しく使うことがためられる

G

とどう違う。(10点)

## ■要素A 「①俳優は―②役者は」(1点)

- 答案が「俳優」と「役者」を対比する形の説明になっておれば可。①②セットで〇1点。

## ■要素B 「堅苦しいこなれぬ日本語」(2点)

- 本文の「よそ行きの熟さぬ日本語」の言い換え。ほぼ同内容の説明がなされていれば可。

## ■要素C 「その人間に対する距離感と礼節とを少なくとも建前上は保つことができる」(2点)

- 本文の「すくなくともたてまえとしては、ある距離をとって礼節を欠かずにすむ」に対応する説明。「その人間に対する距離感と礼節を保てる」内容で〇。ほぼ同内容の説明がなされていれば可。  
△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

## ■要素D 「芝居の現場に息づく」(1点)

- 本文の「芝居の現場のなかで、段ちがいに生きた手ごたえをもって息づいている」に対応する説明。ほぼ同内容の説明がなされていれば可。

## ■要素E 「生きた日本語」(2点)

- 本文の「役者ということばが…段違いに生きた手ごたえをもって息づいている」に対応する説明。ほぼ

同内容の説明がなされていれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 「演劇の門外漢が軽々しく使うのはためらわれる」 (2点)

○本文の「門外漢には、時として何としても許されるべきでない」に対応する説明。ほぼ同内容の説明がなされていれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 二つの事柄の「違い」を説明する答案の文末表現として妥当であると判断できれば可。不適切であると判断される場合は▲1点減点。

問二 8点

■形式上の不備

・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可

A〇2点

B〇2点

C〇2点

ロマン派の求めた天才、獨創性、資本主義社会の私有制を背景に、キリスト教の創造神に類する権威をもつ

D〇2点

E

て作品を産み出し、正統的な解釈の権利を独占する存在。

(8点)

■要素A 「ロマン派の求めた天才、獨創性」 (2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていければ可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B 「資本主義社会の私有制を背景に」 (2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていければ可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「キリスト教の創造神に類する権威をもって作品を生み出し」 (2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていければ可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「正統的な解釈の権利を独占する」 (2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていければ可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 文末表現は「…(という)存在」という形が原則。但し、「どのような存在か」という問いに對

する答案の文末表現として妥当であると判断できれば可。不適切であると判断される場合は▲1点減点。

問三 8点

■形式上の不備

・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。

A〇2点

B〇2点

C〇2点

書き手の私有権、所有権関わる部分を、主として著者、著作者という言葉で移し替え、その権威、独自性独

D〇2点

E

創性に関わる部分を作家という言葉で移し替えたという(こと)。(8点)

■要素A 「書き手の私有権、所有権に関わる部分を」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B 「主として著者、著作者という言葉で移し替え」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「その権威、独自性独創性に関わる部分を」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「作家という言葉で移し替えた」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 文末表現は「…(という)こと(を言っている)」という形が原則。不適切な文末表現であると判断される場合は▲減点1点。

問四 10点

■形式上の不備

・文末表現は要素G参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。

A〇2点

B〇1点

C〇2点

既存の素材に依拠して作品を作りなす 慎ましい存在を意味していた作者という言葉は、作品の法的所有権を

D〇2点

E〇2点

F〇1点

示す著者や著作者、社会的尊敬を示す作家という西欧由来の近代日本語にその内実を奪われて、生きた実感を

G

を伴わない空虚な一般概念に成り下がったと**いうこと**。(10点)

\*要素Aと要素Bは「作者」という言葉の意味説明。

■要素A「既存の作品に依拠して作品を作りなす」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「慎ましい存在を意味していた作者という言葉」(1点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

\*要素Cと要素Dは「西洋由来の近代日本語」の意味説明。

■要素C「作品の法的所有権を示す著者や著作者」(2点)

○「著者」「著作者」はいずれか一つでも可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「社会的尊敬を示す作家」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「西洋由来の近代日本語にその内実を奪われて」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「生きた実感を伴わない空虚な一般概念に成り下がった」(1点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

■要素G 文末表現は「…(という)こと(を)言っている」という形が原則。不適切な文末表現であると判断される場合は▲1点減点。

■形式上の不備

・文末表現は要素D参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。

A①〇1点

A②〇3点

B①〇2点

創造神にも擬えられてきた

西欧近世の「作者」概念が見直され、

作ることを、既存の素材に依拠して作り

B②〇2点

B③〇2点

なすこと、さらには対象を見て模倣することと位置付ける

古来の伝統を再発見しつつある西欧の動向を思

C①〇1点

C②〇3点

えば、「作りだす」という意味が希薄な

「文人」という古語こそが、「作者」に代わる言葉としてふさわ

D

しいと考えるから。

(14点)

■要素A 「創造神にも擬えられてきた西欧近世の「作者」概念が見直され」(4点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

※以下2点に分けて採点。①は②に得点がある場合のみ加点。

①創造神にも擬えられてきた(1点)

②西欧近世の「作者」概念が見直され(3点)

■要素B 「作ることを、既存の素材に依拠して作りなすこと、さらには対象を見て模倣することと位置付ける古来の伝統を再発見しつつある西欧の動向」(6点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

※以下3点に分けて採点。

①「作ることを、既存の素材に依拠して作りなす」(2点)

②「対象を見て模倣することと位置付ける」(2点)

③「古来の伝統を再発見しつつある西欧の動向」(2点)

■要素C 「「作りだす」という意味が希薄な「文人」という古語こそが、「作者」に代わる言葉としてふさわしい」(4点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

※以下2点に分けて採点。①は②に得点がある場合のみ加点。

①「「作りだす」という意味が希薄」(1点)

②「「文人」という古語こそが、「作者」に代わる言葉としてふさわしい」(3点)

■要素D 文末表現は「…から・ので・ため」といった形が原則。理由説明答案の文末表現として不適切であると判断される場合は▲1点減点。

問一 12 点

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素 G 参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。

A〇2点

B〇2点

C〇2点

自然の奥深くに埋め込まれた神聖で神秘的な神の御業を、数学・科学という抽象の手続きで見出した自分の行為を、ニュートンは、神の価値を低め、理神論にも抵触する恐ろしいことだと思っていたと推測される

D〇2点

E〇2点

F〇2点

G

から。 (12点)

■要素A「自然の奥深くに埋め込まれた」(2点)

- ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- △説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「神聖で神秘的な神の御業を」(2点)

- ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- △説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「数学・科学という抽象の手続きで見出した自分の行為を」(2点)

- ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- △説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「神の価値を低め」(2点)

- ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- △説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「理神論にも抵触する」(2点)

- ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- △説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「恐ろしいことだと思っていたと推測される」(2点)

- ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- △説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 文末表現は「…から…」なので「ため」といった形が原則。理由説明答案の文末表現として不適切であると判断される場合は▲1点減点。

問二 8点

■形式上の不備

・文末表現は要素D

■模範解答例 ※各要素同意表現可。

A○3点

近代自然科学の成果を象徴する建築物と言えるグリニッジ天文台のあり方と、その礎石を置く日時をオカル

B○3点

C○2点

D

ト的な占星術で決めるといふ非科学性が矛盾しているから。(8点)

■要素A 「近代自然科学の成果を象徴する建築物と言えるグリニッジ天文台」 (3点)

○「グリニッジ天文台」が「科学の成果」である事が説明されていれば可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素B 「その礎石を置く日時をオカルト的な占星術で決めるといふ非科学性」 (3点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△「オカルト的(な占星術)」と「非科学性」のいずれかを欠く場合は2点。

△説明がかなり曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「矛盾している」 (2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 文末表現は「…から…ので…ため」といった形が原則。理由説明答案の文末表現として不適切で

あると判断される場合は▲1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。

A①○1点

A②○1点

B①○2点

ニュートンの目的は

宇宙の真理を知ることであり、古代の神秘的な英知の再発見につながる研究は

B②○2点

C○2点

D

その重要な手段であって、彼にとって科学はその一分野に過ぎなかったということ。(8点)

■要素A「ニュートンの目的は宇宙の真理を知ること」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

※以下2点に分けて採点。①は②に得点がある場合のみ加点。

①「ニュートンの目的は」(1点)

②「宇宙の真理を知ること」(1点)

■要素B「古代の神秘的な英知の再発見につながる研究はその重要な手段」(4点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

※以下2点に分けて採点。

①「古代の神秘的な英知の再発見につながる研究は」(2点)

○「オカルト的研究」でも可。

②「その重要な手段」(2点)

■要素C「科学はその一分野に過ぎなかった」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

※「その一分野」の「その」は「オカルト的研究」のこと。

■要素D 文末表現は「…(という)こと」という形が原則。不適切な文末表現であると判断される場合は

▲減点1点。



問四 8点

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。

A〇2点

B〇2点

C〇2点

ニュートンの発見した万有引力や力学の法則は、天体の運行など天地創造原理の根幹に関わる科学上の重

D〇2点

要な発見であり、彼はそれを数学的な手続きで達成したから。(8点)

■要素A「ニュートンの発見した万有引力や力学の法則」(2点)

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「天体の運行など天地創造原理の根幹に関わる」(2点)

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「科学上の重要な発見であり」(2点)

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「彼はそれを数学的な手続きで達成した」(2点)

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 文末表現は「∴から・ので・ため」といった形が原則。理由説明答案の文末表現として不適切であると判断される場合は▲1点減点。

■形式上の不備

・文末表現は要素G参照

■模範解答例 ※各要素同意表現可。

A○2点

B○2点

C○2点

自分を聖書の記述を解釈する使命のため神に選ばれた人間の一人と考え、神が秩序立てた世界観を示すた

D○2点

E○3点

めに、全宇宙の謎をあらゆる手段で読み取ろうとしたニュートンにとって、神の神秘に触れるオカルト的な

F○3点

研究は自分だけのための秘儀であり、物理学は現実との接点としてわずかにその位置を占めるに過ぎなかつ

G

たということ。(14点)

■要素A「(自分を) 聖書の記述を解釈する使命のため」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「(自分を) 神に選ばれた人間の一人と考え」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「神が秩序立てた世界観を示すために」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「全宇宙の謎をあらゆる手段で読み取ろうとしたニュートンにとって」(2点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「神の神秘に触れるオカルト的な研究は自分だけのための秘儀であり」(3点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素F「物理学は現実との接点としてわずかにその位置を占めるに過ぎなかった」(3点)

○ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

△説明がかなり曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 文末表現は「…(という) こと」という形が原則。不適切な文末表現であると判断される場合は

▲減点1点。

三 古文 50点

※内容説明の設問では、末尾の句点がないものは1点減点。ただし、現代語訳の設問では、文末の句読点は不問。

問一 10点×3＝30点

- (1) 「賀茂氏なる女、よろづの人に劣れり、さる中にただ疱瘡をなむすぐれて病みける、」の現代語訳。(10点)

【模範解答】

A〇2点

B〇3点

C〇2点

D〇3点

賀茂氏に属するある女は、様々な面で多くの人より劣っていたが、その中でも唯一他人よりまさっていたのは疱瘡の症状だけで、(一命はとりとめたものの痘痕が残ってしまった)、(10点)

■採点のポイント

- A～Dの各配点部分の中の、加点要素が揃っていれば、それぞれの配点を加点する。
- 加点要素が答案の中に表記されており、A～Dの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。

■各加点要素の加点の条件

A 「賀茂氏に属するある女は」(2点)

※「賀茂氏なる女、」の解釈

- 「賀茂氏に属する(ある)女」／「賀茂氏一族である(ある)女」／「賀茂氏一族の(ある)女」／「(陰陽頭・天文学博士であった)賀茂保憲の娘」などで○。

※「冒頭の解説文に「なお、この序文は三人称で綴られている」とあり、「現代語訳」の設問であるから、「私／作者」等は不可とする。

B 「様々な面で多くの人より劣っていたが」(3点)

※「よろづの人に劣れり」の解釈。

- 「(様々な面で)多くの人より劣っていた」「(色々な分野で)多くの人より劣っていた」「(万事)多くの人より劣っていた」などで○。
- 「よろづの」を副詞的にとって「様々な面で／色々な分野で／万事」等の意味にとったものも可とする。

(例)様々な面(他の)人より劣っていた／色々な分野で普通の人より劣っていた／万事(世間の)人より劣っていた

▲完了・存続の助動詞「り」の訳「…ている／…ていた／…た」等の表現がないものは▲減点1点。

C 「その中でも唯一」(2点)

※「さる中にただ」の解釈。

- 「その中でも唯一」「そんな中でもただ」などで○。

D 「他人よりまさっていたのは疱疹の症状だけで」 (3点)

※ 「疱疹をなむすぐれて病みける」の解釈。

○ 「(他人より) まさっていたのは疱疹の症状だけだった」「(他の誰より) すぐれていたのは疱疹の症状だけで」「疱疹だけを(他の誰より) 重篤に病んでしまった」「疱疹をだけ(他の誰よりも) この上なく病んでしまった」などで○。

(4) 「夏の日にも、心の内には雪かき暮らして降りて、消えまがひなどすれば、」の現代語訳。(10点)

【模範解答】

A○2点

B○3点

(混濁した意識の中では) 夏の日でも、女の心の中には 雪が辺りを暗くして降りしきって (その幻

C○2点

D○3点

想の) 桜の花びらや雪も (心の中で) 消えたり、混じりあったりして 区別がつかなくなったりするので

(10点)

■採点のポイント

○ A～Dの各配点部分の中の、加点要素が揃っていれば、それぞれの配点を加点する。

○ 加点要素が答案の中に表記されており、A～Dの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。

A 「夏の日でも、女の心の中には」 (2点)

※ 「夏の日にも、心の内には」の解釈

○ 「夏の日でも、(混濁した意識の中では) (女の) 心の中には」「夏の日でも、(高熱にうかされる) 意識の中には」「夏の日でも、(病に苦しむ) 心中には」などで○。

B 「雪が辺りを暗くして降りしきって」 (3点)

※ 「雪かき暮らして降りて」の解釈。

○ 「雪が辺りを暗くして降りしきって」「雪が空を暗くして降って」「雪が一面に暗くして降りていて」「雪が」などで○。

C 「桜の花びらや雪も」 (2点)

※ 「消えまがひなどすれば」の主体Ⅱ「(その幻想の中で舞い散る) 桜の花びらと(その幻想の中で降りしきる) 雪が」

○ 「桜(の花びら)と雪が」「(あるはずもない) 桜(の花びら)と雪が」「(その幻想の中で舞い散る) 桜(の花びら)と雪が」などで○。

D 「消えたり、混じりあったりして区別がつかなくなったりするので」 (3点)

※ 「消えまがひなどすれば」の解釈。「(心の中で) 消えたり、混じりあったりして区別がつかなくなったりするので」の内容。

○ 「(桜と雪が) 現れたり消えたりして、渾然として見えるので」「(桜と雪が) 消えたり現れたり、錯綜するので」「消えては現れ、入り乱れているので/消えては現れ、混ざり合っているので」「消

えては現れ、区別がつかないので「見間違えるほど、消えては現れるので」「見紛うほど消えては現れるので」などで○。

▲「已然形十ば」の順接確定条件「…ので／…から／…と」がないものは、▲減点1点。

(5)「くもりつつ涙しぐるる我が目にもなほみぢ葉はあかく見えけり」の現代語訳。(10点)

【模範解答】

A ○3点

B ○2点

C ○2点

D ○3点

何度も憂鬱になつては 涙がこぼれる、そんな私の目にも、やはり紅葉の葉は けつきりと真っ赤に見えたのですよ。(10点)

■採点のポイント

○ A～Dの各配点部分の中の、加点要素が揃っていれば、それぞれの配点を加点する。

○ 加点要素が答案の中に表記されており、A～Dの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、重複して記述されていなくてもよい。

○ 和歌の解釈なので、敬語表現の有無は問わない。

A 「何度も憂鬱になつては」(3点)

※「くもりつつ」の解釈。この「くもる」は、精神的に「憂鬱になる」意味ととっても、「視界が曇る」等の意味ととってもよい。

○「何度も視界が曇つては」でもよい○。

○「度々心が暗くなつては」「度々目の前が暗くなつては」などでもよい。

▲接続助詞「つつ」は、動作の反復継続の意味「何度も…しては／度々…しては／繰り返し…しては」等の意味で訳さなければならぬ。動作の反復継続の意味にとれてないものは▲減点1点。

B 「涙がこぼれる、そんな私の目にも」(2点)

※「涙しぐるる我が目にも」の解釈。この「しぐる」は、「涙がこぼれる／落涙する」等の意味である。○「涙がこぼれる(そんな)私の目にも」「(時雨のように)落涙する(そんな)私の目にも」などで○。

C 「やはり紅葉の葉は」(2点)

※「なほみぢ葉は」の解釈。この副詞「なほ」は、我が目が「曇る・時雨る」にもかかわらず、「それでもやはり／やっぱり・やはり／それでもいっそう／それでもさらに／それでも依然として」、紅葉がはつきりと真っ赤に見えた、という意味で使われている。

○「それでもやはり紅葉(の葉)は」「やっぱり紅葉(の葉)は」「やはり紅葉(の葉)は」「それでもいっそう紅葉(の葉)は」「それでもさらに紅葉(の葉)は」「それでも依然として紅葉(の葉)は」などで○。

D 「はつきりと真っ赤に見えたのですよ」(3点)

※「あかく見えけり」の解釈。

○この形容詞「あかし」は、「疱瘡の盛りに目をさへ病みければ」という状態であるにも関わらず「そんな状態でもやはり／そんな病状にも関わらず依然として」と続く文脈なので、「はつきりと／明確に／鮮やかに(真っ赤に)」等と解釈するべきであるが、色調の「赤い／紅い／緋い」等の解釈も可とする。

○この動詞「見ゆ」は、「見える／目に映る／目に浮かぶ」等の意味。

▲「見る」という表現では▲1点減点とする。

○この助動詞「けり」は詠嘆・気づきの意味であるが、以下のように、過去の意味であっても訳してあれば可とする。「…たのだよ／…たのだなあ／…たのだった／…たよ／…たのだ／…た」等。  
▲ないものは▲1点減点とする。

## 問二 (10点)

※「我が身のはかなきこと、世の中のつねないこと、眺むる夕べ、空にたま散る虫を詠み」は、どのようなことを言っているのか、贈答歌をふまえて、わかりやすく説明する。

### 【模範解答】

A①〇2点

A②〇2点

B〇2点

作者が、自分のつまらない人生のことや 現世が無常であることを 考えながら、もの思いに耽る夕暮れに、C〇2点 D〇2点  
空にたまよう螢を魂になぞらえて 和歌を詠むということ。

(10点)

### ■採点のポイント

- A～Eの各配点部分の中の、加点要素が揃っていれば、それぞれの配点を加点する。
- 加点要素が答案の中に表記されており、A～Eの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、加点要素が重複して記述されていなくてもよい。

### ■各加点要素の加点の条件

A「自分のつまらない人生のことや現世が無常であることを考えながら」(4点)

※以下の①②の2点に分けて採点する。

①「自分のつまらない人生のことを考える(思索する／思う)」(2点)

※「我が身のはかなきこと」の解釈

〈例〉自分のつまらない人生のことを考える(思索する／思う)／自分自身の儂い宿命のことを考える(思索する／思う)／自分がとるにたらない存在であることを考える(思索する／思う)

○ 自分自身が「とるにたらない／つまらない／儂い」存在であることを思索しているということ。

②「(作者が) 現世が無常であること(死について／全てが生滅変化すること) を考える(思索する／思う)」(2点)

※「世の中のつねないこと」の解釈

〈例〉(作者が) 現世が無常であることを考える(思索する／思う)／(作者が) この世の無常を考える(思索する／思う)／(作者が) 死について考える(思索する／思う)／(作者が) この世には不変・常住のものは何一つないということを考える(思索する／思う)

※ここは「無常(＝死)」。「無情」は不可。

B「もの思いに耽る夕暮れに」(2点)

※「眺むる夕べ」の解釈

〈例〉もの思いに耽る夕暮れに／ぼんやりと考え事をしている夕暮れに／ぼんやりと螢を眺めていた夕暮れに／ぼんやりと物思いに耽りながら螢を眺めていた夕暮れに  
○どのような時（＝「眺むる夕べ」）か説明できているかが重要。

C 「空にさまよう螢を魂になぞらえて」（2点）

※「空にたま散る虫」の解釈

〈例〉空にさまよう螢を魂になぞらえて／空に飛び交う螢を魂に見立て／空に飛ぶ螢を人の靈魂に喩えて  
○「貴船の御手洗川の螢＝魂」という「metaphor」あるいは「見立て」を読みとる。

D 「（作者が）和歌を詠む」（2点）

※「…を詠み」の解釈

〈例〉（作者が）和歌を詠む／（賀茂保憲の娘が）和歌を作る／（女が）和歌を創作する

○主体が「作者（＝賀茂保憲の娘＝女）」であることが、これ以前の答案箇所で見られるような書き方ならば、ここで減点はしない。

▲そうでないものは▲減点1点とする。

E 「…」（という）こと。／…と言っている。／…名詞。」

※「…」のようなことを言っているのか」という問いの文末表現。

▲問いに対応する文末表現になっていない場合▲1点減点。句点「。」のヌケも同様。

### 問三 10点

※「吾がせるなり、題も知らずる人もなし」はどういうことか、また、そうした理由はなぜなのかを、わかりやすく説明する。

#### 【模範解答】

A ○2点

B ○1点

C ○1点

作者が空想の中で、多くの今は亡き歌人たちの靈魂を誘いあつめ、左右それぞれの方人として配置して、

D ○1点

E ○1点

F ○2点

G ○2点

歌題も一人で決め、自分自身が判者となり、たった一人で仮想の歌合を開催すること。（そして）その理由は、

作者はこうすることによって病床に伏せる孤独な自身をせめて慰撫しようと思ったから（である）。（10点）

#### ■採点のポイント

○A～Gの各配点部分の中の、加点要素が揃っていれば、それぞれの配点を加点する。

○加点要素が答案の中に表記されており、A～Gの各配点部分の中で構成要素として機能していれば、加点要素が重複して記述されていなくてもよい。

○答案は一文でも二文以上でも構わない。

■各加点要素の加点の条件

A 「作者が、空想の中で」 (2点)

※冒頭の解説文「この家集には、相手が明確な贈答歌もなく、作者には宮仕えをした形跡も、歌合などに参加した記録もない。…この時まで貴族の社交的世界から隔絶されて生きてきた…」等からの類推。

〈例〉作者が、空想の中で／賀茂保憲の娘が、想像で／女が、夢想の中で

○この「歌合」が現実ではなく「作者の幻想」だとわかればよい。

B 「多くの今は亡き歌人たちの靈魂を誘いあつめ」 (1点)

※「あまたの魂を語りきて」の解釈

〈例〉多くの歌人たちの靈魂をあつめて／多くの歌人たちの靈魂を誘って／大勢の歌人たちの魂を誘いあつめて

※「あまたの魂を語りきて」の注に「今は亡き多くの歌人たちの靈魂を誘いあつめて」とある

C 「左右それぞれの方人として配置して」 (1点)

〈例〉左右それぞれの方人として配置して／左右に分けて／二組に分けて

○「歌合」の注に「和歌の詠者を左右二組に分け、それぞれの方人たちが指定された題を詠んだ歌を一首ずつ対戦させて、判者がその優劣を比較して勝負を判定した」とある。

D 「歌題も一人で決め」 (1点)

※「題も知らする人もなし」の内容

〈例〉歌題も一人で決め／それぞれの歌の題も勝手に決めて／歌の題も自分で定めて

E 「自分自身が判者となり」 (1点)

※「勝ち負けは心ひとつに定めなどして」の解釈

〈例〉自分自身が判者となり／勝敗も自分で決めて／歌の勝ち負けも思い通りに決めて

F 「たった一人で仮想の歌合を開催する(こと)」「 (2点)

※「吾がせるなり、題も知らする人もなし」の解釈

〈例〉たった一人で仮想の歌合を開催する(こと)／自分一人で空想の歌合を想像する(こと)／一人で歌合を空想する(こと)／自分自身の頭の中で歌合を組み立てる(こと)。

▲「どのようなことを言っているのか」と問われているので、「…(という)こと。／…(という)思想。／…(という)考え。」等となっていないものは▲減点1点。

▲文をここで切っている場合、句点「。」のないものは▲減点1点

G 「その理由は(作者は)こうすることによって病床に伏せる孤独な(自身を)慰撫しようと思ったから」 (2点)

※「ただ心ひとつに思ひて…慰めて明かし暮らす」の解釈



〔例〕その理由は自分自身を慰めるため／その理由は自身の孤独を癒すため／その理由は病床の自身を慰撫したかったから

▲ 「また、そうした理由はなぜなのか」と問われているので、「…から。／…ため。／…（という）理由。」等となっていないものは▲減点1点。

▲句点「。」のないものも▲減点1点。